

(5) 養護教諭部会

会 長 朝比奈 光代 (中筋小)
副会長 西森 希美 (西土佐小)
事務局 朝比奈 光代 (中筋小)

1. 研究主題 「児童・生徒の実態に基づいた保健指導をめざして」

2. 研究経過

実施月日	研究のあらまし	会 場	備 考
令和3年 4月20日(火)	・全体会 (研究体制とテーマの決定・連絡・確認事項) ・グループ研究 (研究体制・研究テーマ・計画等)	四万十市立 武道館	18名
5月6日(木)	四万十市教育研究会組織総会 ・全体会(研究計画)	中村南小学校	19名
6月11日(金)	・小学校100人未満グループ代表者会 (発表資料作成)	中筋小学校	5名
6月21日(月)	・全体会(連絡・確認事項・その他) ・グループ研究	四万十市立 武道館	19名
7月26日(月)	・小学校100人未満グループ (発表資料作成)	四万十市立 武道館	9名
7月27日(火)	・小学校100人以上グループ (発表資料確認)	具同小学校	4名
7月30日(金)	・全体会(連絡・確認事項・その他) ・グループ研究(発表資料確認)	四万十市立 武道館	21名
8月24日(火)	・小学校100人以上グループ	具同小学校	4名
10月12日(火)	・全体会(連絡・確認事項・その他) ・グループ研究	四万十市立 武道館	19名
11月25日(木)	・中学校グループ(発表資料作成)	中村西中学校	7名
12月2日(木)	・全体会 ・グループ研究	四万十市立 武道館	16名
12月5日(日)	・グループ研究(発表資料作成)	県立中村中学校	7名
令和4年 1月18日(火)	・グループ研究	四万十市立 武道館 県立中村中学校	20名
3月8日(火)	・全体会(今年度の反省) ・来年度の研究体制について	四万十市立 武道館	21名

3. 各グループの取組

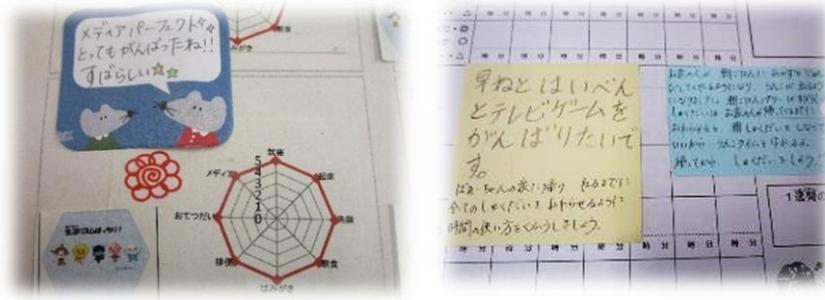
(1) 小学校100人未満グループ

①研究テーマ「基本的生活習慣の確立を目指して

～一人ひとりの児童に応じた個別指導の充実～」

②研究内容

- ・令和3年度 県前期研究大会発表資料の作成
- ・各校の生活点検活動の内容や個別指導の実践交流
- ・来年度の研究内容の検討と資料の収集



(2) 小学校 100人以上グループ

①研究テーマ 「 養護教諭の職務の充実を目指して

～ 校務支援システムの活用について ～

②研究内容

- ・校務支援システムの機能の確認
- ・校務支援システムの活用状況アンケート（幡多地区養護教諭対象）

(3) 中学校グループ

①研究テーマ 「 中学生の基本的な生活習慣について

～ 自己コントロール力をつけるために～

②研究内容

- ・授業実践
指導略案・指導用パワーポイント資料の作成
振り返りアンケート・授業実践報告等の作成
- ・令和3年度 県後期研究大会発表資料の作成
幡多支部研究大会発表資料の作成

インターネット依存について ～自己コントロールを身につけるために～			
1.指導目標	・メディア依存に関わる、様々な影響や害について正しく理解できる。 ・自分自身の生活に照らし合わせて、より良い生活ができるように考える。		
2.指導予定日	令和3年10月8日（金）4校時		
3.指導計画	1時間		
4.指導学年	1～3年（15名）		
5.場所	多目的室		
6.本時の流れ			
本時のめあてと学習予定を知る	資料委員より	めあての確認	各自で1回読む。
メディア利用について考える	個人思考	メディア時間の利用が長いことは体にどんな影響があるか考えよう。	プリントを配布する。
	ペア活動	自分の考えと違うところを書き見よう。	
メディア利用と依存	個人で発表	メディア利用で起こる身体の不調を発表しよう。	
	FFで説明	メディア依存について考えよう。	板との関連
メディア依存にならないための生活について考える。	グループ思考	メディア依存にならないようにするにはどうしたらよいでしょう？	ポスター資料も参考にしよう。 ホワイトボードにまとめる。
	グループの代表が発表	各グループでまとめたことを発表する。	
振り返りまとめ		今日の学習についての感想を書く。	資料プリントを配布 ワークシート

4. 今年度の成果と課題 (○…成果 ●…課題)

(1) 小学校 100人未満グループ

- 基本的な生活習慣の確立をめざした小規模校ならではの取組（生活点検中の付箋を使用したこまめな励ましや評価、工夫をした表彰活動、児童の実態に応じた個別指導など）を共有することができた。
- 他校の取組を参考にして、自校の活動に取り入れたり改善したりすることができた。
- 生活点検活動中は、さまざまな手立てもあり、児童が自分自身の生活課題に気づき改善しようとする努力も見られ一定の効果はあるが点検期間が終わると生活が崩れてしまうことが多く定着は難しい。
- 児童が興味、関心を持つような情報を常に発信し、趣向を凝らした取組を継続していくことの必要性を感じる。
- 取組に対する保護者意識の差があり、個別指導の難しさや家庭の協力を得るための働きかけの方法が課題となった。



(2) 小学校 100 人以上グループ

- 今年度からテーマを新たに変更し、取組を進めることができたことは大きな一歩であった。
- 職務の充実、働き方改革を目指して、校務支援システムの活用方法について各校の実践を交流し活用の際の困り感を共有することができた。
- 大規模校ならではの課題の一つであった【健康カードの活用方法】について検討を行うことができた。また、幡多地区の養護教諭にアンケートを実施することができ、実際の現場の声を基に廃止という結論を出すことができたことは大きな成果であった。
- 就学時検診について各校の実施状況を共有し、学校が抱えている課題について管理職に問題提起をすることができた。
- 全員が校務支援システムを作動しながら機能の確認ができなかったため、実際の活用の場面で不確かなものになってしまった。
- 校務支援システムについて、各校の養護教諭が独自で判断して活用しているため内容に差異が生じている項目もある。
- 今年度、新たなテーマを設定し取組を進めてきたが、まだまだ便利な項目を活用するまでには至らず、進捗状況は微々たるものとなった。来年度も引き続き校務支援システムの有効活用について研究を続けていきたい。

(3) 中学校グループ

- 授業実践では、依存による影響や健康問題について理解を深めることができた。
- 中学校区で共通した課題を見つけ、共通理解のもとで資料を作り、各校での実践へと繋げていくことができた。7校が同じ方向で実践できたことは大きな成果であった。
- 自己コントロール力を身に付けるために自分にできることについては考えることができたが、行動変容にまで至ったかという点と各校ともに課題となった。
- 学校での取組を継続しながら、家庭をどう巻き込んでいくかも今後の課題である。

